

P4-9 原発事故被災者の社会的要因と心的ストレス症状との関連：2020年調査から

○賈 一凡¹，金 智慧^{2,4}，大橋 美の里³，岩垣 穂大^{4,5,6}，増田 和高^{4,7}，辻内 優子^{2,8}，桂川 泰典^{2,4}，小島 隆矢^{2,4}，扇原 淳^{2,4}，根ヶ山 光一^{2,4}，熊野 宏昭^{2,4}，辻内 琢也^{2,4}

¹早稲田大学人間科学部健康福祉科学科，²早稲田大学人間科学学術院，³早稲田大学人間科学研究科，⁴早稲田大学災害復興医療人類学研究所，⁵日本女子大学人間社会学部，⁶早稲田大学人間総合研究センター，⁷武庫川女子大学文学部，⁸ポレポレクリニック

Social Factors Related to Psychological Stress Symptoms in Fukushima Nuclear Disaster Victims -From the Analysis of 2020 Survey-

○Yifan Jia¹，Jihye Kim^{2,4}，Minori Oohashi³，Takahiro Iwagaki^{4,5,6}，Kazutaka Masuda^{4,7}，Yuko Tsujiuchi^{2,8}，Taisuke Katsuragawa^{2,4}，Takaya Kojima^{2,4}，Atsushi Ogihara^{2,4}，Koichi Negayama^{2,4}，Hiroaki Kumano^{2,4}，Takuya Tsujuchi^{2,4}

¹School of Human Sciences, Waseda Univ., ²Faculty of Human Sciences, Waseda Univ., ³Graduate School of Human Sciences, Waseda Univ., ⁴Waseda Institute of Medical Anthropology on Disaster Reconstruction., ⁵Faculty of Integrated Arts and Social Sciences, Women's Univ., ⁶Advanced Research Center for Human Sciences, Waseda Univ., ⁷School of Letters, Mukogawa Women's Univ., ⁸Porepore Clinic

【目的】東日本大震災から9年目の現在、県内外に避難している原発事故被災者に対する調査から、心的ストレスレベルの改善が見られるものの、一部の避難者が未だに高いストレス状態に苦しんでいることも明らかになった。本発表では、被災者らの社会・経済的要因と心的ストレス症状の関連性に着目し、今後の支援及びケアのあり方を検討する。

【方法】2019年12月から2020年2月において、福島県内外にて避難生活を送る避難者を対象にアンケート調査を実施し、第一段階として1月6日に回収された226件を解析し、心的ストレス症状を測定するK6の得点に影響を及ぼす社会・経済的要因について検討する。

【結果】本調査では、ストレスレベルが高いと考えられるK6カットオフ値13点以上を示した者の割合が10.6%であった。本アンケート調査データをカイ2乗検定にて分析した結果、現在の経済状況に対する悩み、現在の仕事に対する不満足、住宅支援の打切り、原発事故賠償の心配、主観的健康状態、現居住地の友人との付き合いの欠如、避難先での嫌な経験などの要因が被災者の高いストレス状態とかなり強い関連性を示している。

【結論】被災者の高いストレス状態には、避難生活による経済的ストレス、健康状態に対する心配、社会的孤立などの社会・経済的要因があることが明らかになった。こういった社会の不平等、経済的格差による構造的暴力に着目し、被災者により適切な支援を行う必要がある。

P4-10 新人指導に適した看護師の心理的特性とは？－看護師や大学生との比較－

○今井田 真実¹，今井田 貴裕^{2,3}，福井 義一⁴

¹中京学院大学看護学部看護学科，²国際心理支援協会国際心理支援協会，³甲南大学非常勤講師，⁴甲南大学文学部人間科学科

Psychological traits of the nurses suitable for training the rookie nurses compared with averages among the nurses or the university students

○Mami Imaida¹，Takahiro Imaida^{2,3}，Yoshikazu Fukui⁴

¹Dept. of Nursing, Faculty of Nursing, Chukyo Gakuin Univ., ²International and Psychological Support Association, ³Part-time lecturer of Konan Univ., ⁴Dept. of Human Science, Faculty of Letters, Konan Univ

【目的】新人指導に適した看護師は、有能で健康的であると目される(今井田他，2019)。こうした看護師は、共感性や感情の管理能力が高く、職業的アイデンティティも確立され、人生満足度が高いのに対して、病的解離傾向は低いことが予測される。本研究では、新人指導に適した看護師の心理的特性を探索的に検討するために、上記の仮説を検討した。

【方法】今井田他(2019)と同じ、研究協力の同意を得た新人指導に適していると目された看護師9名を対象に、共感性と感情労働、職業的アイデンティティ、人生満足度、解離傾向を測定する質問票調査を行った。

【結果】感情労働と職業的アイデンティティについては先行研究における一般看護師の、それ以外の変数については看護師のデータがなかったため、一般大学生の平均値を検定値とした1サンプルのt検定を行った。その結果、自己指向的共感の「空想」や他者指向的共感の「共感的配慮」、解離傾向と検定値の差が有意、自己指向的共感の「個人的苦悩」と感情労働の「表層適応」、「ケアの表現」と検定値の差が有意傾向であり、いずれも検定値より低かった。それ以外の変数と検定値の間に有意差はなかった。

【考察】本研究から、新人指導に適していると目される看護師の共感性や感情の管理能力が特に優れているわけではないことが分かった。看護師において、新人指導の有能さと心理的特性にはほとんど関係がないことが示唆された。